BCAO 関西地域勉強会 令和4年2月度（第165回）地域勉強会

1. 日 時　令和4年2月16日（水） 18：50～20：30
2. 場 所　Zoom
3. 司会者、書記：飯田
4. 出席者　（関西支部）飯田、梅田、萩原、柳父、鷲山、別役、高杉、大館、寺岡、西濱、三橋、上辻、中村和、福島（15 名）
（ITBO 研究会）加藤、大塚、近藤（3 名）　（計 18 名）

BCAO ITBO 研究会-関西地域勉強会 合同勉強会

以下テーマに沿って、ITBO 研究会-関西支部のメンバーにてディスカッションを行った。
（テーマ）メインテーマ：「with/after コロナをどう生き抜くか：この 1 年で進まなかったこと」
①危機管理戦略のアップデート、BCP の議論について
②コロナ禍のビジネス変容について
※上記 2 テーマを予定していたが 2 月度は①のみ実施
（役割）司会：関西地域勉強会 飯田、ITBO 研究会 加藤
ファシリテーター：ITBO 研究会 大塚

＝＝

（1）はじめに：両座長（飯田、加藤）
（2）進行についての説明：ファシリテーター（大塚）
（3）『危機管理戦略のアップデート、BCP の議論について』
（柳父さん問題提起）危機管理戦略のアップデート、BCP の議論について

・顧客のニーズ、商品、市場の変化に対する BCP の議論が進んでいない。
・BCP も進化する必要があるが、3.0 にも至っていない。。
2011-12 BCP2．0オールハザード BCP への変革、グローバル BCP の意識
2012-21 BCP3．0：リモート環境における BCP の DX
2030- BCP4．0：ESG 時代に求められる BCP の未来像
・需用減少に対する対策が取れていない。飲食業では補助金で儲かっている事業者もいるが、倒産の危機にある事業者の方が多い。
・また一方で再開時にヒトの確保ができなくなっており、このような問題を我々は抱えているといえる。

（加藤さん説明）新型インフルエンザ BCP VS 新型コロナ BCP

・鳥インフルエンザ BCP が新型コロナに対して機能したかを、厚労省：職場における新型インフルエンザ対策ガイドラインの内容を振り返りながら確認
・新型インフルエンザ BCP では、発生段階に従って対策実施や発動を決めていたものが多かった。
・政府の対応指示が 2009 年ガイドラインとは異なり、BCP 発動の対応が難しかった。
・2009 年の被害想定と現状：多数の患者・死者は発生したが、社会的混乱は比較的少なかった。まん延防止、緊急事態による活動制限がメインであった。

・経済的損失は業種に依存するが、まだ正確な見積もりは出ていない。
・感染経路は接触と飛沫が主で、空気感染の可能性は低いとされていた。
・事業継続計画策定での留意点自体の大枠は、おおむね妥当と思われる。
・感染者→回復は業務復帰できる前提であったが、再度罹患する可能性があり、状況が異なる。
・

◆ディスカッション：オミクロン株感染ピークで対策を考える上で「特に何に注目しているか」

（飯田）濃厚接触者が激増しており、生産現場などでの要員確保が大きな問題になっている。
（加藤）東京では 80 人に一人が感染者になっている。
（大舘）感染者・濃厚接触者に加えて、学校・保育所の閉鎖もあり、それにより勤務ができない従業員が出ている。人がいないために事業を縮小しなければいけない状況になりかねない。また 3 回目の職域接種希望者は前回に比べて大きく減っている。副反応がある一方で若い人は重症化しないことが影響。
（梅田）家庭内感染は大きな問題だが、対応がとられていない。会社だけでは対応できない。

（飯田説明）BCAO の新型コロナ BCP のポイントについて

・BCP 文書・目次構成は地震 BCP と同じ、新型コロナを含むマルチハザードに対する BCP を示す
（ビジネスへの影響）人に起因する影響・要員不足、広域的・世界的、サプライチェーン・物流遅延中断、長期化、複合災害、ビジネス復興の視点
（戦略を検討する上でのポイント）BIA が重要、社会的責任・社会機能維持、供給レベル低下、短期から 1 年以上、残すべき業務・止める業務
（基本戦略）継続戦略、停止戦略、撤退・新規事業戦略
（個別戦略）継続戦略：自前・応援・代行・相互援助、代替戦略　停止戦略：経営視点での停止・廃止、感染防止のための停止
（対策/基準・ルール）従業員区分：出社・在宅・自宅待機、会議・対面業務・出張、在宅：情報アクセス・セキュリティ
（対策/体制）エスカレーション、トリガー、フェーズに応じたシフト体制

◆ディスカッション

（大塚）新型コロナ BCP を持っていましたか？→3 名、BCP を発動しましたか？→3 名
（鷲山）BCP では感染防止の対策・人対策はしっかり決められているが、事業継続については希薄なのが実態。多能工化についての記載はあるが、実際には対策できていない。
（梅田）BCAO の BCP、企業の BCP に疑問がある。結局後追い。感染症対応では被害想定は変わる。判断するトリガーを決めて、それに対する対策を準備する必要があるのでは。
（大塚）新型コロナ BCP 自体がナンセンスで、柔軟に対応する力をつけておく必要があるということだと思う。
（近藤）噴火などコロナ＋二重・三重の災害に見舞われており、オールハザードの視点の必要性を改めて感じている。BCAO の BCP のポイントを聞いていて、重要業務の継続が可能なのか疑問に感じた。飲食店ではまさにそれができていない実情がある。
（萩原）中小企業では、特に人のカバーはあきらめているのが実態。一方で、新規事業・事業再構築を考え出している。それを支援していくことが重要で、BC の考え方を転換していく必要がある。
（上辻）企業の対応事例紹介：A・B 班体制、分散対策など新型インフルエンザ BCP を使用して対応した。

コロナ対策をそこに付加していった。以降パンデミックの際は今回の蓄積が利用できると考える。また同時に IT の改革が進行し、業務に支障も出なかった。

（大塚）IT 革命が進む一方で、セキュリティ対策、家庭内感染対策を企業側として支援できるような体制がとれているのか気になるところ。

（梅田）上辻さんへ、新フル BCP 策定者がコロナ対応の指揮を執ったのか。

（上辻）新フル BCP 策定者が指揮をとった。マニュアルも詳細に準備されていた。ある意味オーバースペックではあるが、それが効を奏した。その分、人員・費用も掛かった面もあるが。

（大塚）コロナに対して BCP をどうしたらよいのかの議論は続くと思う。柔軟に臨機応変に対応できるようにする必要があるというのが結論かと思う。

（4）終わりに当たって

（飯田）今回議論ができなかったが、「コロナ禍のビジネス変容について」も議論したい。教育問題も重要で、どう変わるのかも情報交換をしていきたい。

（加藤）家庭内感染、人の問題など課題が多いと感じた。新型インフルの BCP が効果を上げた企業もあるとのことなので、今後も勉強も続けたい。

（大塚）各研究会に持ち帰って議論を深めることになるが、機会があれば情報交換、ディスカッションを継続したい。複合災害についても備えが必要。コロナだけではなく、二重、三重に備える必要があると感じた。

以上